

## Andersen et al v. Stability AI Ltd. et al, Docket No. 3:23-cv-00201 (N.D. Cal. Jan 13, 2023)<sup>1</sup>の現状（上）（下）

2023年7月23日（上）

2023年7月26日（下）


弁護士 渡邊 明彦

### はじめに

今回紹介する事件 Andersen et al v. Stability AI Ltd. et al は、原告である3名のアーティスト（Sarah Andersen、Kelly McKernan、Karla Ortiz）<sup>2</sup>が、被告等（Stability AI Ltd、Stability AI, Inc.、Midjourney, Inc.、DeviantArt, Inc.）による著作権法違反、デジタルミレニアム著作権法違反、パブリシティ権の侵害、カリフォルニア州不正競争防止法違反の行為によって損害を被ったとして損害賠償等を求めている事件である。

視覚的に、本件訴訟の背景を紹介しておこう。朝日新聞デジタル「アーティストの作品でAI訓練 「無断で複製された」米国で集団提訴」<sup>3</sup>



アーティストのカーラ・オルティスさん。女神のような女性の絵（右）をまねた多くの画像がネット上で見つかったという=2023年3月20日、サンフランシスコ、五十嵐大介撮影 

<sup>1</sup> 本件訴訟の訴状 (complaint) は、[https://ipwatchdog.com/wp-content/uploads/2023/02/Andersen\\_et\\_al\\_v.\\_Stability\\_AI.pdf](https://ipwatchdog.com/wp-content/uploads/2023/02/Andersen_et_al_v._Stability_AI.pdf)、参照。

<sup>2</sup> 本件訴訟は、3名の原告の共同訴訟でもあり、クラスアクションの代表者でもある。One or more members of a class may sue or be sued as representative parties on behalf of all members… (Federal Rules of Civil Procedure Rule 23. Class Actions) クラスアクションは、代表訴訟であって、集団訴訟ではない。

<sup>3</sup> [https://www.asahi.com/articles/ASR4D6DT3R4CUHBI01T.html?iref=pc\\_photo\\_gallery\\_bottom](https://www.asahi.com/articles/ASR4D6DT3R4CUHBI01T.html?iref=pc_photo_gallery_bottom)



本件は、原告等のイラストや絵を、被告 Stability AI により、その AI システム Stable Diffusion の訓練に使用されたことを理由として、その行為が著作権侵害等<sup>6</sup>に該当するとして損害賠償を求めた、「AI 企業に対して提起された最初の事件」<sup>7</sup>である。

この注目を集めている事件の進行は、2023 年 1 月 13 日の提訴から、7 月 20 日までの記録を参照することによりできるが、現時点における論点は<sup>8</sup>、

“U.S. District Judge William Orrick stated that he was inclined to dismiss most of the lawsuit brought by a group of artists against generative artificial intelligence companies. However, he allowed them the opportunity to file a new complaint. The artists were accusing Stability AI, Midjourney, and DeviantArt of misusing their work to train AI systems.

Judge Orrick noted that the artists needed to clearly state and differentiate their claims against the AI companies. He also requested that they provide more facts regarding the alleged copyright infringement, as they have access to Stability’s relevant source code. The judge stated that it seemed implausible that their works were involved, as the AI systems

<sup>4</sup> 同上。

<sup>5</sup> 同上。

<sup>6</sup> 本件訴訟の訴状の請求の趣旨には、直接の著作権侵害、間接的著作権侵害による損害賠償、デジタルミレニアム著作権法違反（著作権管理情報の侵害）、制定法上、コモンロー上のパブリシティ権の侵害、不正競争防止法違反等が掲げられているが、本稿では、著作権法に関する論点を中心に考察する。また、被告、Stability AI に対する著作権法違反の訴えを中心に検討し、Midjourney, Inc.、DeviantArt, Inc. に関する論点は割愛する。

<sup>7</sup> Gabriel Karger, AI-Generated Images: The First Lawsuit, <https://journals.library.columbia.edu/index.php/stlr/blog/view/479>

<sup>8</sup> MOTION to Dismiss filed by Stability AI Ltd., Stability AI, Inc.. <https://storage.courtlistener.com/recap/gov.uscourts.cand.407208/gov.uscourts.cand.407208.51.0.pdf>

have been trained on five billion compressed images.”

担当判事が、原告等が訴状において主張している事実によっては、請求を根拠付けることができないので、訴えを棄却する可能性があるとして原告等に警告している点である。<sup>9</sup>

本件訴訟の訴状は、「生成 AI サービスを提供する AI 企業に対して提起された最初の訴訟」だけに、かなりの工夫が凝らされている優れたものであるとの感想をもつが、それでも、「主張された事実が認定されたとしても、請求 (cause of action) を根拠付けられない」とか、「主張すべき事実が主張されていない」との批判、欠陥もあながち的外れでもないようであり、その点を含めて、紹介してみたい。

なお、本件訴訟については、提訴後直ぐから、原告等の訴えを好意的に論評する紹介記事<sup>10</sup>もあれば、批判的に紹介する記事もある。<sup>11</sup>なお、被告等の行為については、「ただ、そもそも日本の著作権法では、権利者の許諾なく AI に著作物を読み込ませて学習させることができる。AI など新技術の活用を促し産業競争力を強化する観点から、2018 年の法改正で整備された。」<sup>12</sup>と断定する見解もあることを紹介しておこう。

## I. 本件訴訟の請求の原因の論理

やや長いですが、訴状から引用する。<sup>13</sup>

---

<sup>9</sup> I. AI IMAGE GENERATORS ARE 21ST-CENTURY COLLAGE TOOLS THAT VIOLATE THE RIGHTS OF MILLIONS OF ARTISTS [画像生成器は、21世紀のコラージュ用ツールであって、数万人のアーティストの権利を侵害している]

<sup>11</sup>

<https://fagenwasami.com/ai/us-judge-finds-flaws-in-artists-lawsuit-against-ai-companies/64652/>

<sup>10</sup> 「画像生成AI「Stable Diffusion」と「Midjourney」に対して集団訴訟が提起される」

(2023年1月16日) <https://gigazine.net/news/20230116-stable-diffusion-midjourney-litigation/>、

「米アーティストがStable Diffusionなど画像生成AIに集団訴訟 「作者に無断で作品を学習に使用」と訴え」 (2023年1月17日)

<https://nlab.itmedia.co.jp/nl/articles/2301/17/news169.html>、

「無断で複製された」米国で集団提訴」 (2023年4月12日)。

<sup>11</sup> 「AIアートと著作権：「Stable Diffusionを違法化するためのロジック」が人間のアーティストを苦しめるワケ」 (2023年4月8日) (Electronic Frontier FoundationのHow We Think

About Copyright and AI Artの翻訳) <https://p2ptk.org/copyright/4393>。

<sup>12</sup> 朝日新聞デジタル「AIの無断学習、日本の著作権法ではOK 侵害にあたるケースは」

[https://www.asahi.com/articles/ASR4D6FB3R4DUCVL03K.html?iref=pc\\_extlink](https://www.asahi.com/articles/ASR4D6FB3R4DUCVL03K.html?iref=pc_extlink)

<sup>13</sup>

1. Stable Diffusion is a software product—defined below as an AI Image Product—maintained and sold by Stability.

[*Stable Diffusion* は、以下に AI 画像製品として定義されるソフトウェア製品である。]

2. Stability downloaded or otherwise acquired copies of billions of copyrighted images without permission to create Stable Diffusion, including Plaintiffs'. These images are defined below as "Training Images."

[*Stability* 社は、原告等の画像を含め、許可無く何百万という著作権により保護された画像をダウンロード又はその他の方法で取得して、*Stable Diffusion* を作成している。]

3. By training Stable Diffusion on the Training Images, Stability caused those images to be stored at and incorporated into Stable Diffusion as compressed copies. Stability made them without the consent of the artists and without compensating any of those artists.

[訓練用画像上で *Stable Diffusion* を訓練することにより、*Stability* 社は、圧縮されたコピーとしてそれらの画像を *Stable Diffusion* に保存し、組み込んでいる。]

4. When used to produce images from prompts by its users, Stable Diffusion uses the Training Images to produce seemingly new images through a mathematical software process. These "new" images are based entirely on the Training Images and are derivative works of the particular images Stable Diffusion draws from when assembling a given output. Ultimately, it is merely a complex collage tool.

[ユーザーのプロンプトにより画像を作成するとき、*Stable Diffusion* は、訓練用画像を使用して、数学的なソフトウェアをつうじて、一見新しい画像のように見える画像を作成している。これらの「新しい」画像は、全面的に訓練用画像に基づいており、*Stable Diffusion* が所定の画像を組み立てるとき参照した特定の画像の二次的著作物である。結局は、それは複雑なコラージュ用ツールに過ぎない。]

5. These resulting derived images compete in the marketplace with the original images. Until now, when a purchaser seeks a new image "in the style" of a given artist, they must pay to commission or license an original image from that artist. Now, those purchasers can use the artist's works contained in Stable Diffusion along with the artist's name to generate new works in the artist's style without compensating the artist at all. As used herein, the phrase "in the style of," refers to a work that others would accept as a work created by that artist whose "style" was called upon, not the general category of work, such as fantasy or impressionism. Only a very small number of incredibly talented artists are capable of this same feat for a single other artist (i.e., reproducing art that is convincingly in that artist's style), let alone for countless other artists. AI Image Products do so with ease by violating the rights of millions of artists.

[これらの、結果として二次的に作成される画像は、本来の画像と市場において競合する。現在に至るまで、所定のアーティストの「画風の」新たな画像を購入社が求めるときは、当該アーティストから本来の画像の手数料又はライセンス料を支払わなければならなかった。いまや、これらの購入者は、当該アーティストの名前付きで、そのアーティストの作品を *Stable Diffusion* 内で、そのアーティストの画風で生成して利用することができるが、そのアーティストには何ら代金は支払われない。本訴状で、「画風で」と言う場合、その「画風」が思い起こされる当該アーティストによって創作された作品として、第三者が受け入れる作品の画風のことを言い、幻想派とか印象はとかのような作品の一般的な分類ではない。他の誰か他のアーティストについて、このような業（つまり、そのアーティストの画風だと納得するようなかたちで、作品を複製すること）ができるのは、想像もつかないほど才能に恵まれた少数のアーティストだけであって、もちろんその他多数のアーティストにはとてもできない。AI 画像製品は、これをこともなげにやって見せ、何百万というアーティストの権利を侵害するのである。]

6. All AI Image Products operate in substantially the same way and store and incorporate countless copyrighted images as Training Images.

[すべての AI 画像製品は、実質的に同じ方法で作動しており、訓練用画像として無数の著作権により保護された画像を保存し、組み込んでいる。]

7. Defendants, by and through the use of their AI Image Products, benefit commercially and profit richly from the use of copyrighted images.

[被告等は、その AI 画像製品により、またそれらを通じて、著作権により保護された画像を利用して、商業的に利益をあげ、多大な利益を得ている。]

8. The harm to artists is not hypothetical—works generated by AI Image Products “in the style” of a particular artist are already sold on the internet, siphoning commissions from the artists themselves.

[アーティスト達が被る損害は仮定的なものではなく—特定のアーティストの「画風で」AI 画像製品により制作された作品は、すでにインターネット上で販売されており、アーティスト本人等が受け取るべき料金を吸い上げている。]

9. Plaintiffs and the Class seek to end this blatant and enormous infringement of their rights before their professions are eliminated by a computer program powered entirely by their hard work.

[原告等と、想定されるクラス所属人等は、コンピュータプログラムによって、もっぱらアーティスト達のハードワークに支えられたアーティスト達の権利が、大胆かつ大規模な権利の侵害によって毀損され、その職業が消滅させられる前に、これらの侵害を停止させることを求めている。]

## II. コラージュという視点について

Wikipedia によると、



「コラージュ（仏: collage）とは絵画の技法の1つで、フランス語の「糊付け」を意味する言葉である。

通常の描画法によってではなく、ありとあらゆる性質とロジックのばらばらの素材（新聞の切り抜き、壁紙、書類、雑多な物体など）を組み合わせることで、例えば壁画のような造形作品を構成する芸術的な創作技法である。作品としての統一性は漸進的な並置を通して形成される。コラージュは絵画と彫刻の境界を消滅させることを可能にした。」

とされ、左のような画像が紹介されている。<sup>14</sup>

他方、本件訴状においては、テキスト・プロンプト（文章による指示）「野球帽を被った犬がアイスクリームを食べている」によって、Stable Diffusion により「条件付き」で生成された画像の例として、以下の画像が紹介されている。「野球帽」＋「犬」＋「アイスクリーム」のコラージュと考えられない訳ではない。



なお、米国では、コラージュと著作権侵害をめぐる判例に動きがあり、Andy Warhol

<sup>14</sup> Andy Warhol Foundation for the Visual Arts, Inc. v. Goldsmith (598 U.S. \_\_\_, 2023)

[https://www.supremecourt.gov/opinions/22pdf/21-869\\_87ad.pdf](https://www.supremecourt.gov/opinions/22pdf/21-869_87ad.pdf)

<https://ja.wikipedia.org/wiki/%E3%82%B3%E3%83%A9%E3%83%BC%E3%82%B8%E3%83%A5>



Foundation for the Visual Arts, Inc. v. Goldsmith において、米国連邦最高裁判所は、2023年5月18日に、「この写真家のオリジナル作品には、他の写真家の作品と同様、有名アーティストに対しても著作権保護の権利がある」と判示した。<sup>15</sup> 下級審においては、「ウォールホールは、ゴールドスミススのプリンス像を「か弱い、不快な人物から、アイコンのような実際の人物より大きな存在」に変化させるという、元々のゴールドスミススのプリンスの写真を、十分に変容 (transform) させた」と判断し、ウォールホール財団勝訴の判決を下したが、<sup>16</sup> 控訴審ではウォールホール財団敗訴と判断が覆り、最高裁判所は、控訴審の判断を支持した。

### III. 本件訴状における拡散モデルの記述

#### A. 複製

Stable Diffusion が、原告等の著作物を無断で複製していたら、著作権法違反の侵害行為となる。ここで、「複製」の意味が問題となるが、先に翻訳を提供した米国議会調査局 (Congressional Research Service) の「生成 AI と著作権法 (Generative Artificial Intelligence and Copyright Law)」によれば、

「先ず、著作権の侵害を証明するためには、原告は、侵害者が元来の著作物を「実際に複製したこと」を証明しなければならない。これは、ときには、侵害者が「著作物にアクセスした」という状況証拠によって証明される。AI 出力については、アクセスの有無は、AI プログラムが元来の著作物を使って訓練されたという証拠によって証明できるかもしれない。例えば、元来の著作物が、AI プログラムを訓練するためダウンロードされていたり又は「スクレイプ」される、公開されているアクセス可能なインターネットサイトの一部であったかもしれない。

第二に、侵害を立証するためには、原告は、新たな著作物が元来の著作物と「本質的<sup>17</sup>に類似する」ことを証明しなければならない。本質的類似性テストは、定義するのが困難であり、米国裁判所ごとに異なっている。裁判所は、このテストでは、例えば、その著作物には「本質的に類似する全体的なコンセプト及びフィール」があったとか、又は「全体的なルック・アンド・フィール」があったとか、又は「通常の合理的な人であったなら二つの著作物を区別することができなかったであろう」ことを要求するものとして様々に説明してきた。代表的な判例では、また、原告の著作物全体との関係で、この決定は、複製され

---

<sup>15</sup> [https://www.supremecourt.gov/opinions/22pdf/21-869\\_87ad.pdf](https://www.supremecourt.gov/opinions/22pdf/21-869_87ad.pdf)

<sup>16</sup> “Warhol had sufficiently transformed Goldsmith's original photograph under fair use as to show the change of Prince "from a vulnerable, uncomfortable person to an iconic, larger-than-life figure".

<sup>17</sup> “substantially”は、米国著作権法の翻訳では、多くの場合「実質的」と訳されている。

た部分の「質的及び量的な重要性」の両者を考慮して行われると述べられている。AI 生成出力については、伝統的な著作物に劣らず、1 p の「本質的類似性」分析は、裁判所に AI 出力と元来の著作物との間のこの種の比較を行うよう求めていることがある。」<sup>18</sup>

ここで、本件訴訟において、原告等は、Stable Diffusion が採用している技術を、その技術の原典にさかのぼって検討する。

#### **D. How Stable Diffusion Works: A 21st-Century Collage Tool**

...

67. The diffusion technique was invented in 2015 by a team of researchers led by Jascha Sohl-Dickstein at Stanford University and introduced in their paper “Deep Unsupervised Learning Using Nonequilibrium Thermodynamics” (2015).<sup>6</sup> The technique can be applied to any kind of data, but the paper focuses on its application to digital images.

68. Diffusion operates in two phases. The first phase of diffusion is to take an image and progressively add more noise to it in a series of steps. In this case, “noise” refers to something seen rather than heard, but the connotation is the same: random fluctuations that we perceive as chaotic and unstructured. At each step, the program records how the addition of noise changes the image. By the last step, the image has been “diffused” into essentially random noise.

69. The second phase is like the first but reversed. Having recorded the process of turning a certain image into noise over many steps, the program can then run the sequence backwards. Starting with some random noise, the program applies the steps in reverse order. As it progressively removes noise (or “denoises”) the data, the program is eventually able to reconstruct the original image.

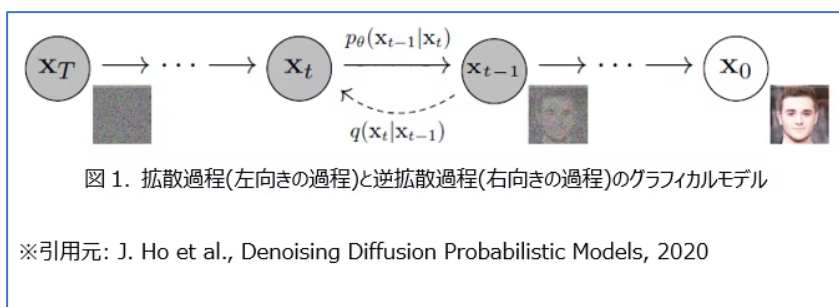
70. The program relies on complicated mathematics, linear algebra, and a series of algorithms and requires powerful computers and computer processing to recognize underlying relationships in the data.

この処理は、日本語の文献でも紹介されているとおり、

---

<sup>18</sup> <https://crsreports.congress.gov/product/pdf/LSB/LSB10922>





「拡散モデルのベースとなるのは、図 1 の左向きの拡散過程と、右向きの逆拡散過程（生成過程）です。拡散過程は画像 に徐々にガウシアンノイズを加えていき、最終的に純粋なガウシアンノイズ を得る過程です。これは単純にノイズを加えていくだけです、簡単に追跡することが可能です。

一方、逆拡散過程は純粋なガウシアンノイズ が与えられたときにここから徐々にノイズを除去していき、最終的に鮮明な画像 を得る過程です。こちらは拡散過程と異なり追跡が困難なことが容易に想像できると思いますが、もしこの過程に沿って を得ることができれば、純粋なノイズから鮮明な画像を得ることができます。この逆拡散過程を利用して画像を生成するのが拡散モデルの基本的なアイデアです。」<sup>19</sup>

拡散過程では、現画像にノイズを加えていき、完全なノイズにした後に、今度は逆にノイズを除去していくという操作を加えると、「この逆拡散過程を利用して画像を生成する」ことができるというのが、Jascha Sohl-Dickstein, Eric Weiss, Niru Maheswaranathan, Surya Ganguli の Deep Unsupervised Learning using Nonequilibrium Thermodynamics により提唱された「拡散モデル」であると、本件訴状では要約されている。

この「拡散モデル」では、拡散過程で、原画像が判別不能な純粋なノイズにされることから、「破壊 (corruption)」されるとか「崩壊 (decay)」するとか表現されるが、本件訴訟において、原告等は、

Because a trained diffusion model can produce a copy of any of its Training Images—which could number in the billions—the diffusion model can be considered an alternative way of storing a copy of those images.

（訓練された拡散モデルは、訓練画像のコピーを作成することができるので、一ときには、何十億ものコピーをも、一拡散モデルは、訓練画像のコピーを保存するもう一つの方法と考

<sup>19</sup> 拡散モデルの基礎と研究事例: Imagen  
[https://qiita.com/iitachi\\_tdse/items/6cdd706efd0005c4a14a](https://qiita.com/iitachi_tdse/items/6cdd706efd0005c4a14a)

えることもできる。)

原画像が破壊されたり、崩壊するので、「原著作物へのアクセスが喪失されるのではないか」との疑問については、本件訴状は「拡散モデルは、原画像を保存して、コピーを作成する」と主張する。この点については、

と書くこともできます。拡散過程の漸化式(1)を繰り返し利用すると、任意の時刻  $t$  における  $x_t$  は  $x_0$  を減衰した信号に平均ゼロのガウシアンノイズ  $\epsilon_1, \epsilon_2, \dots, \epsilon_t$  の線形結合を加えて得られることが分かります。ここで、正規分布に従うノイズの和はまた正規分布に従うという性質 ( $z_1 \sim N(\theta, \sigma_1^2 I), z_2 \sim N(\theta, \sigma_2^2 I)$  に対して  $z_1 + z_2 \sim N(\theta, (\sigma_1^2 + \sigma_2^2) I)$ ) を利用すると、加えられる  $\epsilon_1, \epsilon_2, \dots, \epsilon_t$  の線形結合はただ一つのガウシアンノイズ  $\epsilon \sim N(0, I)$  で表現できることが分かります。結果的に、

$$x_t = \sqrt{\bar{\alpha}_t} x_0 + \sqrt{1 - \bar{\alpha}_t} \epsilon \quad (3)$$

と単純な形で書くことができます。ここで  $\alpha_t = 1 - \beta_t$ ,  $\bar{\alpha}_t = \prod_{s=1}^t \alpha_s$  です。これは条件付確率の形で書くと、次のようになります:

$$q(x_t | x_0) = N(x_t; \sqrt{\bar{\alpha}_t} x_0, \sqrt{1 - \bar{\alpha}_t} I) \quad (4)$$

したがって、拡散過程における任意の時刻の信号  $x_t$  は、逐次的な遷移を繰り返すことなく初期値  $x_0$  から直接算出することができます。式(4)は逆拡散過程の確率分布を求める際に利用されます。

つまり、「したがって、拡散過程における任意の時刻の信号は、逐次的な遷移を繰り返すことなく初期値 から直接算出することができます。」<sup>20</sup>とされるとおり、「拡散モデルは、原画像を保存して、コピーを作成する」ので、「原画像へのアクセス」は、肯定されよう。

## B. 二次的著作物？

次に、本件訴状では、さらに、Jonathan Ho, Ajay Jain and Pieter Abbeel, Denoising Diffusion Probabilistic Models という論文が紹介されている。<sup>21</sup>

76. In December 2020, the diffusion technique was improved by a team of researchers at UC Berkeley led by Jonathan Ho. These ideas were introduced in their paper “Denoising Diffusion Probabilistic Models”.

77. Ho’s paper described two improvements to the diffusion technique.

<sup>20</sup> 同上、拡散モデルの基礎と研究事例: Imagen

[https://qiita.com/iitachi\\_tdse/items/6cdd706efd0005c4a14a](https://qiita.com/iitachi_tdse/items/6cdd706efd0005c4a14a)

<sup>21</sup> <https://arxiv.org/abs/2006.11239>

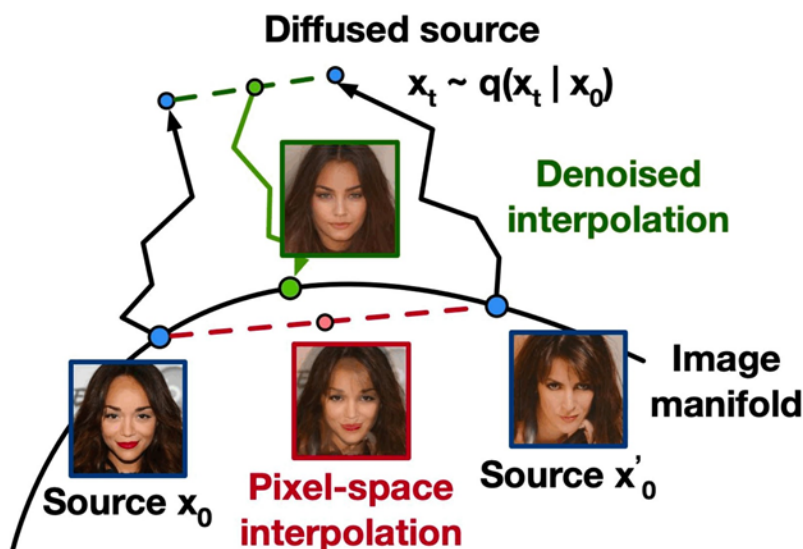
78. First, Ho introduced what he called “progressive lossy compression”, a way for a diffusion model to store its training data more efficiently without impacting its ability to reconstruct high-quality copies of the training data. These compressed versions of Training Images have come to be known as latent image representations (or just latent images). Ultimately, a latent image is just another copy of an image from the training dataset.

79. Second, Ho showed how a latent image could be interpolated—meaning, blended mathematically—to produce new derivative images. Rather than combine two images pixel by pixel—which gives unappealing results—Ho showed how Training Images can be stored in the diffusion model as latent images and then interpolated as a new latent image. This interpolated latent image can then be converted back into a standard pixel-based image.

原画像を、「損失の多い」が圧縮度の高い lossy compression（非可逆圧縮）する。非可逆圧縮された訓練用画像を潜在画像として特徴量を導出し、この特徴量が分布している潜在区間で、特徴量を用いて多様体を構築する。潜在空間の潜在画像と他の潜在画像を内挿して得られる画像も潜在空間内に存在している。こうして得られる内挿潜在画像を、逆に、標準的なピクセルベースの画像に戻す。

本件訴状においては、原論文中の以下の図が、再掲載されている。

81.4



Denoising Diffusion Probabilistic Model (DDPM) は、Stable Diffusion でも採用されてい

る技術であるが、原画像から二次的著作物を生成する手法であるかのようでもあるが、AIに二次的著作物に関する著作権を与えることはできないので、やはり、複製の問題に帰着するであろう。

本件訴状では、第三の論文として、Robin Rombach, Andreas Blattmann, Dominik Lorenz, Patrick Esser, Björn Ommer, High-Resolution Image Synthesis with Latent Diffusion Models <sup>22</sup>が引用されているが、そこでは、上述のように、「a dog wearing a baseball cap while eating ice cream」というような Text Prompt – 日本では「呪文」という訳語が付けられている – に応答する画像生成の問題が論じられているが、この問題は、

AI 関連訴訟・判例紹介シリーズ①

## Getty Images (US), Inc. v. Stability AI, Inc. (1:23-cv-00135)

で既に検討しているので <sup>23</sup>、割愛する。

### IV. 訓練あるいは機械学習 (ML) – 残された課題

本件訴状において、原告等は、その請求の原因を、次のように要約している。

## IX. CLAIMS FOR RELIEF

### COUNT I

### DIRECT COPYRIGHT INFRINGEMENT

17 U.S.C. §§ 106, *et seq.*  
(All Defendants)

...

155. Defendants had access to but were not licensed by Plaintiffs or the Class to train any machine learning, AI, or other computer program, algorithm, or other functional prediction engine using the Works.

156. Defendants had access to but were not licensed by Plaintiffs nor the Class

<sup>22</sup> <https://arxiv.org/pdf/2112.10752.pdf>

<sup>23</sup> <https://www.linkedin.com/pulse/getty-images-us-inc-v-stability-ai-123-cv-00135%2525E3%252581%2525AE%2525E7%2525B4%2525B9%2525E4%2525BB%25258B-akihiko-watanabe%3FtrackingId=j7LHC7%252BicGXDwpEHcHJb7w%253D%253D/?trackingId=j7LHC7%252BicGXDwpEHcHJb7w%3D%3D>

to incorporate the Works into the products offered by Stability, DeviantArt, Midjourney, or related software applications.

157. Defendants had access to but were not licensed by Plaintiffs or the Class to download, store, or distribute copies of the Works for use in training or otherwise creating AI Image Products.

...

160. Defendants directly infringed Plaintiffs' and the Class's rights because they have:

- a. reproduced one or more of the Works in violation of 17 U.S.C. § 106(1);
- b. prepared Derivative Works based upon one or more of the Works in violation of 17 U.S.C. § 106(2);
- c. distributed copies of one or more of the Works to the public in violation of 17 U.S.C. § 106(3);
- d. performed one or more of the Works publicly in violation of 17 U.S.C. § 106(4); and/or
- e. displayed one or more of the Works publicly in violation of 17 U.S.C. § 106(5).

例えば、「本件著作物を使用して、機械学習 [システム] を訓練すること」が、「著作権法に違反する、本件著作物の複製に該当する」と主張しているが、これには、論理の飛躍があるように思われる。

この点は、さらに別稿で、「ML を訓練する」あるいは、日本でよく使われる表現である「ML が学習を行う」と言うことを、法律的にどのように評価すべきかという観点から、再度、検討する予定である。<sup>24</sup>

(終わり)

---

<sup>24</sup> 「学習」という現象が、損失関数を最小化するようなパラメータ、重み、初期値等の決定に過ぎないこと、「学習」は擬人化された表現で、法律的には不適切であることについては、「第2回 人工知能(AI)の不思議な学習－「学習」とは損失関数の最小化の比喩にすぎない」 <https://www.watanabeinternationallaw.com/artificial-intelligence-法務/第2回-第2回-人工知能-ai-の不思議な学習-学習-とは損失関数の最小化の比喩にすぎない/>、参照。